

V 健やかな「都」をつくる 17 福祉の充実

(97) 農福連携の推進

これまでは

農福連携とは、障害者の農業分野での活動を通じて、**農業経営に寄与**するとともに、**障害者の生きがいを生み出す**取組。農業現場での**貴重な働き手**になることと、障害者に**癒しを与え、生活の質の向上**をもたらすことを期待

現状は、
 ・農業経営体で雇い入れた人数(常雇い1,270人)に対する**障害者の割合は2~3%(29人)**
 ・農業に取り組む施設の工賃平均額は全施設の工賃平均額と比べ高い傾向
 ・農業に取り組んでいる施設の割合(26.0%)は全国状況(33.5%)より低い

課題は、
 ・障害者を雇用している全ての経営体が「雇用を継続したい」と考えているが、体制、知識、経験が少ない。
 ・障害者施設では意欲は高いが、農業の生産・販売の技術取得、人材確保、生産基盤の整備が課題と考えられている。

もっと良くするために

農業現場と施設での課題解決を支援して**農業を障害者の働く場**に育てます。

農業分野で障害者を理解する取組

- 農福連携職場体験実習(1百万円)
- 農福連携マルシェ(販売会)の開催(1百万円)

障害者側が農業を知る取組

- 障害施設サービス事業所へ専門家を派遣、人材育成研修(1百万円)

農業側と福祉側をつなぐ取組

- (新)コーディネーターを配置し障害者の農業分野での就労をマッチング(4百万円)

障害者の農業雇用を支援

- 農業参入に対するワンストップ相談
- 障害者雇用をする農業者に設備投資資金の利子補助 } (1百万円)

令和2年度予算案 8百万円

R2予算案 7,813千円

農業分野で障害者を理解する取組

①農福連携職場体験実習(832千円)

対象者: 特別支援学校1・2年生、
障害者就業・生活支援センター登録者
 期間: 2~3日
 参加人数: 15人



②農福連携マルシェ(販売会)の開催(1,170千円)

開催日: 令和3年2月頃
 場所: イオンモール榎原 サンシャインコート
 概要: 障害者就労施設等が生産する農産物や加工品の販売、農福連携の活動紹介



障害者側が農業を知る取組

③農福連携専門家派遣(950千円)

障害福祉サービス事業所へ専門家を派遣し、農産加工品の新規開発や農産物の販路拡大を支援

④農福連携人材育成研修(270千円)

農福連携に関する知識・技能をもつ人材を育成するための研修を実施

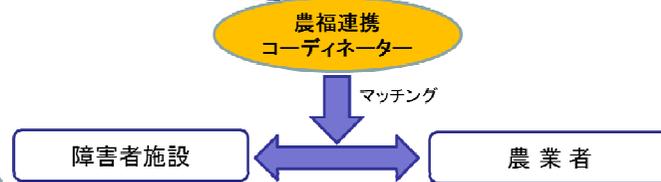
農業側と福祉側をつなぐ取組

⑤(新)農福連携コーディネーターの配置(3,605千円)

障害者就労施設における農業分野での就労を促進するため、コーディネーターを配置し、**農作業等の仕事を求める障害者施設と人手を求める農業者のマッチング**を支援

《障害者施設と農業者のマッチング》

農福連携コーディネーターが農業者と障害者施設の間に入って、受注(契約)、発注(契約)、作業内容の調整、スケジュール、現場確認等を行う。



障害者の農業雇用を支援

⑥奈良の意欲ある担い手支援(509千円)

農業参入に対するワンストップ相談の実施

⑦農福連携資金利子補給(477千円)

障害者雇用をする農業者等に対し、設備投資に係る借入金に対する利子補給

<問い合わせ先>

①~③、⑤福祉医療部障害福祉課 田中課長補佐(内線2832)

④、⑥農林部担い手・農地マネジメント課 伊村課長補佐(内線4021) ⑦喜多仲課長補佐(内線4022)

V 健やかな「都」をつくる 17 福祉の充実

(98) 重症心身障害児(者)支援センターの設置

これまででは

重症心身障害児(者)支援の必要性があり
検討を進めてきました。

・重症心身障害児(者)とは
「重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している児童(成人した重症心身障害児を含めて、重症心身障害児(者)と呼ばれる。)」

(参考) 県内の重症心身障害児(者)数 864名(平成27年度)

【身体障害者手帳1級又は2級、及び療育手帳A1又はA2の両方を所持している人】

○重症心身障害児(者)が必要とする支援
重症心身障害児(者)が必要とする支援は、「重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複した状態」であることから、
・自分一人で日常生活を送ることが困難であり、**全ての生活面で介助が必要**(家族の心身の負担が大きい)
・約4割は医療的ケア(人工呼吸器・吸引・胃ろう等)が必要であり、**医療と福祉両面からの支援が必要**。
・必要な支援は、状態や年齢により一律ではなく、**個別性の高い支援が必要**

平成30年4月～
ニーズ調査の実施、重症心身障害児(者)支援センターの機能について検討

重症心身障害児(者)の保護者からのニーズが高い
医療型短期入所施設について、事業所数が増加する
よう医療機関へ働きかけた結果、3施設の増加となりました。

もっと良くするために

(新) 関係団体等へのニーズ調査結果や福祉、医療、教育等関係機関との議論を踏まえ、**重症心身障害児(者)支援センターを設置(6百万円)**

県 (仮称)重症心身障害児(者)支援センター
(専門的・広域的支援)
広域的・専門的な相談支援や関係機関との連携・調整を行い、地域の相談支援体制をサポート

市町村・圏域 (身近な相談支援・直接的支援)
福祉 相談支援事業所・障害福祉サービス事業所 市町村等
医療 訪問看護ステーション・病院・診療所 保健センター等
連携 重症心身障害児(者)およびその家族

医療的ケア児等支援のための「協議の場」を設置 (1百万円)
医療的ケア児等コーディネーター養成 (1百万円)
中南和地域のレスパイト病床確保 (5百万円)
県内児童が入所する県外施設療育加算金 (1百万円)

令和2年度予算案 14百万円

R2予算案 14,374千円

(新) (仮称)重症心身障害児(者)支援センターの設置 (6,209千円)

広域的・専門的な相談支援や各関係機関との連携・調整を行い、**重症心身障害児(者)や医療的ケア児に対する身近な地域(市町村・圏域)における相談支援体制の構築をサポート**

[機能] 広域的・専門的見地からの助言・支援(困難事例等)、人材育成、短期入所等の利用調整、関係機関ネットワークの構築

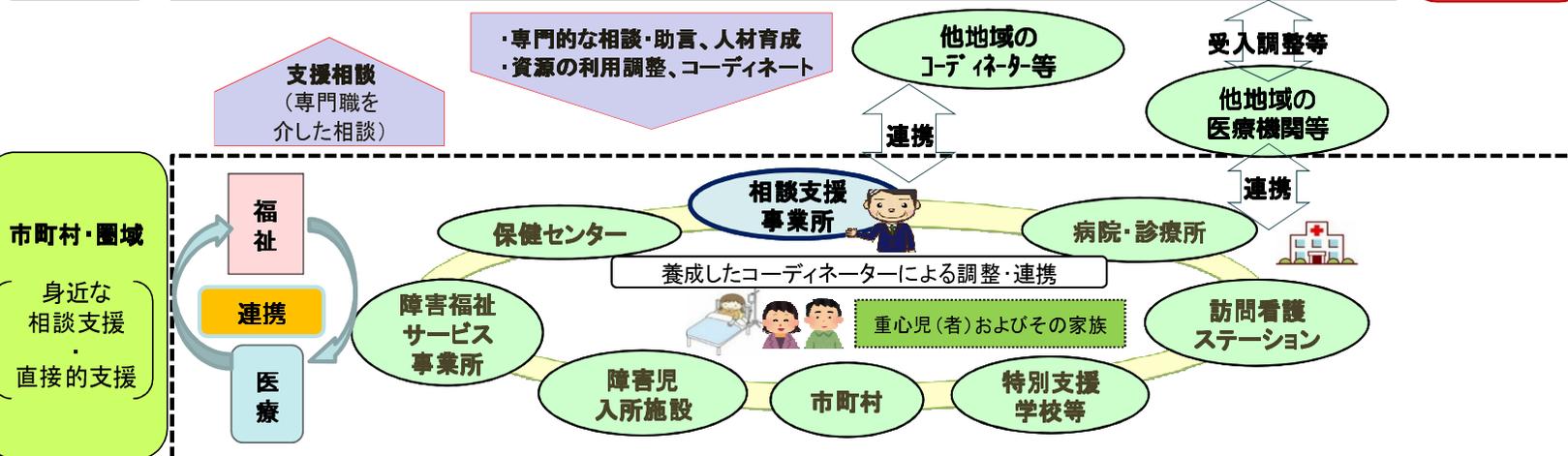
[体制] (仮称)重症心身障害児(者)支援スーパーバイザー、マネージャー、専門相談員(看護師・社会福祉士等)

[対象者] 重症心身障害児(者)：重度の肢体不自由と知的障害が重複している児(者)
医療的ケア児：人工呼吸器等を使用し、医療的ケアが必要な児
※24時間、全ての生活面で介助が必要であり、また医療と福祉の両面からの支援が必要



協議の場

保健、医療、福祉、教育等の各分野の関係機関と、地域全体の課題と対応策等について検討



医療的ケア児等支援のための「協議の場」を設置 (250千円)

医療的ケア児等コーディネーター養成 (566千円)

中南和地域のレスパイト病床確保 (5,669千円)

県内児童が入所する県外施設療育加算金 (1,680千円)

〈問い合わせ先〉

福祉医療部 障害福祉課 畑澤主幹(内線2839)

V 健やかな「都」をつくる 18 だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり

(100) スポーツ施設の整備構想策定

これまでは

スポーツ施設が充分でない奈良において次期国民体育大会の開催が迫り、スポーツ施設のあり方検討が必要となってきました。



まほろば健康パーク 観客席増設及び屋根設置完成イメージ図

プロスポーツのためのスポーツ施設も充分ではありません。

R2予算案 19,000千円

○スポーツ拠点施設整備基本計画の策定

2030年(令和12年)の「第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会」の開催と、その先の将来を見据えて、関係市町村と調整を図りながら、大会主会場等拠点施設の整備に関する基本計画を策定

	R元年度	R2年度
概要	(仮称)奈良県スポーツ拠点施設整備構想の策定 ・大会主会場及び関係施設の整備構想	(仮称)奈良県スポーツ拠点施設整備基本計画の策定 ・大会主会場及び関係施設の基本計画
検討事項	・基本コンセプト ・県と市の役割分担 ・施設配置 等	・施設の配置と仕様 ・交通アクセス ・工程 ・整備の主体と手法 ・民間活用 ・財政計画 等

もっと良くするために

令和2年度中に「2030奈良国体主会場等整備基本計画」を策定(19百万円)

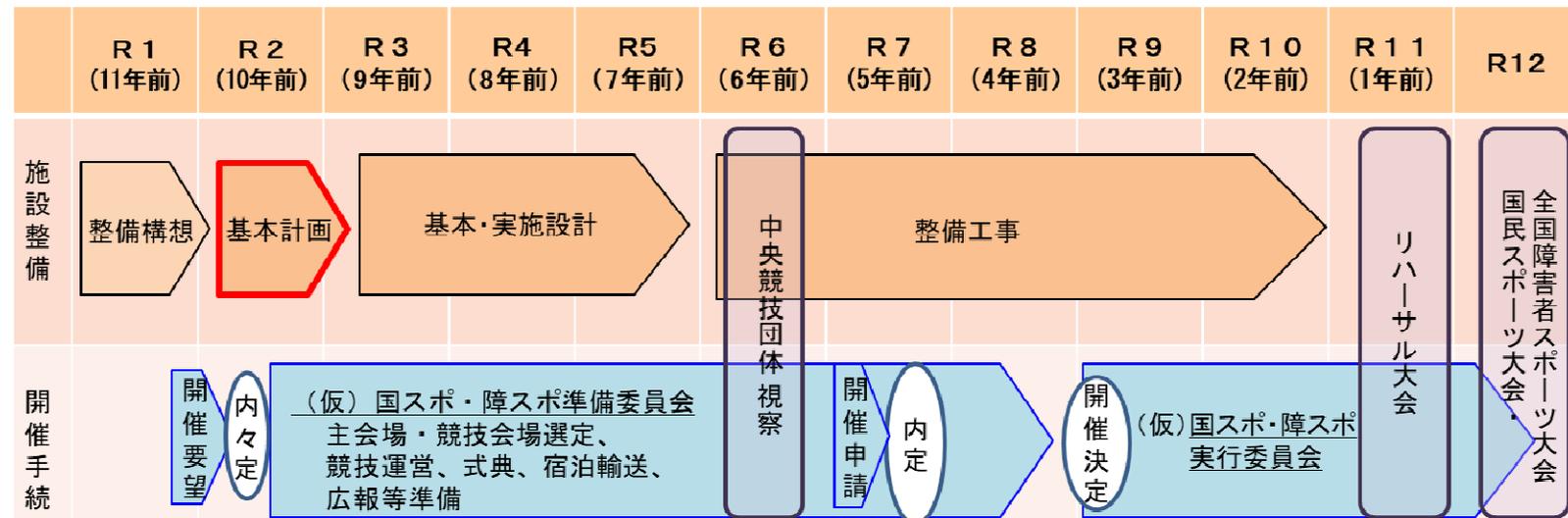
○2030年(令和12年)の「第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会」を招致(2月議会で招致意向表明予定)

○検討の内容は施設の機能・規模・配置・交通アクセス・工程・整備主体・手法・民間活用の可能性・財政計画等

・県内のスポーツ施設の現状を把握し、新しく必要な施設を確定します。
・具体的に、どこで整備するかについては関係者と協議のうえ令和2年度中に決定します。

令和2年度予算案 19百万円

<スケジュール>



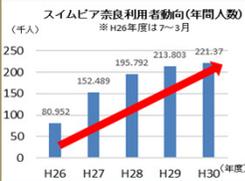
<問い合わせ先>

くらし創造部スポーツ振興課 椋本課長補佐(内線5271)

V 健やかな「都」をつくる 18 だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり (101) スイμπピア奈良(県営プール)の施設充実、まほろば健康パークの機能強化

これまでは

平成26年7月にスイμπピア奈良(県営プール)が開業し人気上昇中です。



(全体11.5ha)

まほろば健康パークに近接して約8.5haの空き地があります。それを利活用した公園機能強化の検討をしています。



もっと良くするために

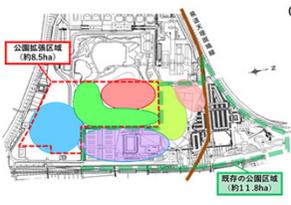
国際大会や全国大会等の招致も視野に入れ、令和3年夏の供用に向け、「スイμπピア奈良」50m屋外プールの観客席増設や屋根の整備等を進めます。(令和3年6月竣工予定)(584百万円)



<観客席増設及び屋根整備等イメージ>

拡大区域の機能強化について、令和3年度に基本計画を策定します。(22百万円)

基本コンセプト「子どもが思い楽しみ、遊びや運動を通して成長する公園」



- (凡例)ゾーニングイメージ
- アメニティ施設ゾーン
 - 乳児・幼児が遊びを通して成長できる施設ゾーン
 - 子ども連れの家族が思い、誰もが交流できる施設ゾーン
 - 子どもが遊びや運動を楽しみ、上達する施設ゾーン
 - 子どもが目標に向かって取り組むスポーツ施設ゾーン
 - 競技スポーツゾーン(既存:水泳、テニス)

PFI手法により、健康増進施設、競技施設、管理等施設及び公園機能を一体的に運営します。(174百万円)

令和2年度予算案 780百万円

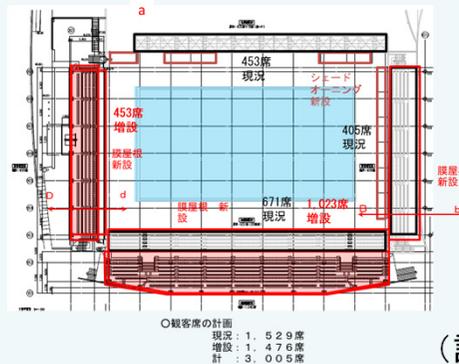
R2予算案 779,691千円

①まほろば健康パークの機能強化

・「スイμπピア奈良」50m屋外プールの観客席増設や屋根の整備等を推進(584,307千円)
令和3年6月竣工予定

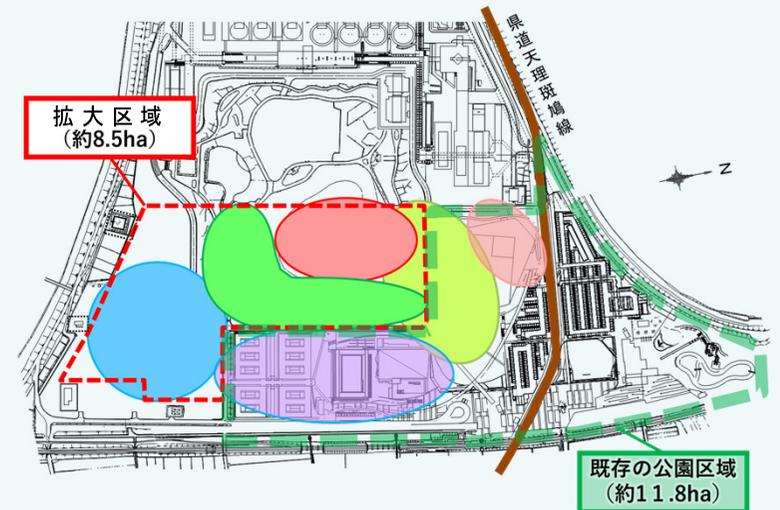


(整備イメージ)



(計画平面図)

・まほろば健康パークの拡大区域の機能強化について、令和2年度に基本計画案を作成(22,000千円)



(凡例)ゾーニングイメージ

- 乳児・幼児が遊びを通して成長できる施設ゾーン
- 子ども連れの家族が思い、誰もが交流できる施設ゾーン
- 子どもが遊びや運動を楽しみ、上達する施設ゾーン
- 子どもが目標に向かって取り組むスポーツ施設ゾーン
- アメニティ施設ゾーン
- 競技スポーツゾーン(既存:水泳、テニス)

②PFI手法により、健康増進施設、競技施設、管理等施設及び公園機能を一体的に運営(173,384千円)

○ まほろば健康パークの管理運営(PFI事業期間:平成23年10月12日~令和11年3月31日)

○ スイμπピア奈良を利用する障害者の利用料金の減免

<問い合わせ先>

まちづくり推進局 公園緑地課 ①奥田主幹(内線4327) ②政木主幹(内線4307)